

大阪市立
西淀川
特別支援学校

タイトル(テーマ)
「声シャッターで鑑賞活動しよう！」

西淀川 No 8 号

平成
27年 3月 31日

対象の児童生徒
中学 部 Bグループ

困り感
作品展の鑑賞。見るだけでなく、肢体不自由障がいがあっても、もっと主体的に体験できないか。



取り組みの内容・授業の様子等
【使用アプリ、機器等】:「声シャッター」、プロジェクター
【内容・授業の様子】:「声シャッター」は「声」でカメラ機能のシャッターをきることができるアプリ。「はいちーず」以外にも言葉を自分で設定でき、生徒の言いやすい言葉に設定して使用した。中学部Bグループは昨年度5名で痙直型とアテトーゼ型の緊張が強い生徒が1名ずつおり、作品展を鑑賞する授業で自分の気に入った作品を写真で記録し、発表の材料とした。



成果と今後の課題
成果：痙直型やアテトーゼ型の緊張の強い子はスイッチでシャッターをきるのがなかなかうまくいかず、失敗体験が多くなってしまふ。そこで自分の発声しやすい言葉をシャッターにして写真を撮ることに。アテトーゼの子は発語にも過緊張が入ってしまうが、「はい」と設定し、反応感度を高めることで何枚も撮る事ができていた。本人たちも簡単に撮れることがわかると、どの作品にするのかの選択にも幅が広がりました。
課題：無線LAN環境の整備、撮った写真を張り付けるノートアプリの選定。